

郭沫若在文学作品中所用的比喻

大 高 順 雄

Simile and Metaphor in Literary Works of Guo Mo Ruo

OTAKA Yorio

众所周知，比喻是传统的文体手法。「故詩有六義焉。一曰風。二曰賦。三曰比。四曰興。五曰雅。六曰頌。上以風化下。下以風刺上。主文而譎諫。言之者無罪。聞之者足以戒。故曰風。[鄭注 風化風刺。皆謂譬喻不斥言也。主文主與樂之宮商相應也。譎諫詠歌依違不直諫。]」¹。「詩文弘奧、包韞六義。毛公述傳、獨標興體。豈不以風通而賦同、比顯而興隱哉。故比者附也、興者起也。」²。在今天则成为认知言语学最理想的对象。显然它也是构成郭沫若文体的特征之一。本轮中随处引用诗经里的诗句仅供参考。郭沫若所用的比喻用语是‘如’，‘象’，‘一样’，‘好象’‘譬如’，‘那样’，‘真象’。比喻被分为直喻 simile (肯定：X 如同 Y 一样；否定：X 不像 Y 那样) 和间喻 metaphor (肯定：X 是 Y. 否定：X 不是 Y)。直喻与间喻又分为肯定和否定。此外比喻句子 (P: Q 如 R: S)。

I

直喻按语法分类，其用例如下。

一語	1 如	2 象	3 式			
二語	1 一样 (肯定)	2 一样 (否定)	3 好象	4 譬如	5 那样	6 真象
相關語	1 象 一样	2 如 一样	3 好象 一样	4 如象 一样		
	5 似乎 样子					

注 1 星野恆校訂 漢文大系12 毛詩尚書 詩譜序 東京 富山房 昭和五十九年 增補版第五刷 2 - 3頁。

2 戶田浩曉著 新釈漢文大系65 文心雕龍 下 東京 明治書院 昭和53年 比興 第三十六 491頁。

II

直喻的主体（左边）与客体（右边）的关系如下。单括号〔 〕内的数字表示频度。

II. A 肯定

1 主体 = 自然現象 [16]

1.1 心中 = 溪泉

在那朴素的心中，和山里的溪泉一样没有什么渣滓和尘埃夹杂着的心中」，（北伐途次 二—86）塵も埃も混ざっていない山の谷川のような彼のあの純朴な心の中に、

1.2 请神 = 太空

他（=王阳明）的精神我觉得真是如象太空一样博大，（王阳明礼赞 289页）彼の精神は太空のように広大だと私は感じる、

1.3 斗志气 = 虹

人民斗志气如虹（东风集 古美绝交前后所见 243页）人民の闘争心は虹のようだ

1.4 他 = 长虹

我是受他骗了！他好象那道长虹，（卷耳集 鄘风蝮蝥 166页）私は彼に騙されました。彼はあの長い虹のようです、

按： 詩經

1) 有女如雲（鄭風・出其東門）女あり、雲のようだ

2) 其從如雲（齊風・敝荀）お供は雲のようだ

3) 其從如雨（齊風・敝荀）お供は雨のようだ

4) 其從如水（齊風・敝荀）お供は水のようだ

5) 鬢髮如雲（鄘風・君子偕老）黒髪は雲のようだ

6) 會弁如星（鄭風・淇奥）冠は星のようだ

7) 麻女如雲（曹風・蜉蝣）麻の衣は陽炎のようだ

8) 副笄六珈，委委佗佗，如山如河（鄘風・君子偕老）添え髪、簪、六玉、しとやかに
におおらかに、山のように河のように

1.6 思想改革 = 和风细雨

思想改革应该是和风细雨式的。（光明日报 1957. 5. 28）思想改革はそよ風小雨式であるべきだ。

按： 詩經

1) 愁如調饑（周南・如墳）憂いはひもじさのようだ

2) 心之憂矣，如匪澣衣（鄘風・柏風）心の憂さは洗わない衣のようだ

1.7 浮世 = 漆夜

茫茫浮世... 如夜如漆，（櫻花書簡 59 152页）茫々たる浮世は... 漆黒の夜のようです、

1.8 他的生涯真好想在夜静月明中乘风破浪。(王阳明礼赞 289页) 王陽明の生涯は静かな夜の月明かりに風に乗り波を切るようである。

按： 詩經

1) 麻衣如雪(曹風·蜉蝣) 麻の衣は雪のよう

1.9 泪珠 = 流星

泪珠一样的流星坠了。(星天 星天 176页) 涙の玉のような流星が落ちた。

1.10 我 = 大渡河里面的水

我自己颇感觉着也象大渡河里面的水一样，一直是在崇山峻岭中迂回曲折地流着。(我的童年 3页) 私は大渡河の川水のように、高い険しい山々を縫って曲りくねって流れているように強く感じていた。

1.11 他 = 流星

他就好象一颗流星一样，一溜地跳起来了。(星天广寒宫 248页) 彼は流れ星のように飛んで来る。

1.12 表情 = 云层

我看到每一个人的表情都沉闷闷地，就象那梅雨太空稠云层迭。(芍药及其他 雨 286页) 私は各人の表情がどれも悶々として、ちょうどあの梅雨空の積雲の一つ一つのように見えた。

1.13 牌子 = 烟云

不要把你北大教授的牌子来压人，不要把你留美学生的资格来压人，你须知道这种如烟如云没多大斤两的东西是把人压不倒勒的！(集外 討論注釈運動其他 148页) あなたの北京大学教授という肩書きで、あなたの米国留学生の資格で人を威圧してはなりません。そのような煙のような雲のような重さのないものは人を圧倒することが出来ないことを知るべきです。

1.14 名字 = 写在水上的

他(一位阵亡了的朋友的)名字... 我相信总不会是象写在水上的一样吧。(北伐途次 小引 6页) (戦死した友人の) ... 名は水の上に書いたものように消えてしまわないと信じる。

1.15 喧騒 = 远潮

地上的嚣声，已如远潮一样，渐渐退，(星天 广寒宫 244页) 地上の喧騒が引潮のようにだんだん遠のいて、

1.16 议厅 = 大海

一个议厅就象大海一样无边。(新华颂 在理智的光辉中 53页) 会議場は大海のように涯しなし。

2 主体 = 人工物 [12]

2.1 恐怖 = 火

我们的恐怖是如火如荼(如火如荼的恐怖)(成句) 我々の恐怖は火のように赤く、つばな

のように白い。

2.2 笑容 = 燧蜡

他的笑容就好像一枝洋蜀烛的燧蜡一样，几乎把全身都要溶化下去。（百合与蕃茄 上 392页）彼の笑い顔は蠟燭の垂れた蠟のようになり、殆ど全身を溶かしてしまいそうである。

2.3 群叶 = 玉片

群叶如玉片纷披，（星天 广寒宫 244页）乱れた葉は碎けた玉のように広がり、

按： 詩經

- 1) 有女如玉（召南・野有花麋）女あり、玉のようだ
- 2) 毳衣如璫（王風・大車）毛衣は赤い玉のようだ
- 3) 膚如凝脂（衛風・碩人）肌は凝った脂のように白い
- 4) 言念君子・溫其如玉（秦風 小戎）夫について言えば、玉のように優しい

2.4 枝 = 青銅

枝于如青铜滑膩。（星天 广寒宫 244页）枝は青銅のように滑らかである。

2.5 英国人 = 铁

冷酷如铁的英国人（胜利的死 其三）鉄のように冷酷な英人

2.6 宇宙 = 铁

茫茫的宇宙，冷酷如铁！（女神 第二辑 凤凰涅槃 风歌 36页）茫々たる宇宙は、石のように冷酷である。

2.7 苹果 = 木屑

本来我们四川也是有苹果的，... 吃时就和嚼木屑一样，（初出夔门 360页）もともと私らの四川にも林檎はあるが、... 食べると、まるで木屑を噛むようである、

2.8 清闲 = 橡皮带子

很象是已经失掉了弹性的橡皮带子一样，... 清闲得不可比拟。（北伐途次 三十 120页）弹性を失ったゴム紐のようなもので、... 暇は比べものにならないぐらいだ。

2.9 风 = 刀

风如刀刮，（樱花书简 38页）風は刀のように切る

2.10 明星 = 无数的街灯

天上的明星现了，好象点着无数的街灯。（星天 天上的市街 194页）空の星が出ると、無数の街頭のように瞬く。

2.11 雨 = 绵

雨不断地下着，似乎有绵下去的样子。（芍药及其他 下乡去 七 新的果实 339页）雨は間断なく降っていた。まるで真綿が降ってくるようだった。

2.12 幼年时代 = 高屋地基

幼年时代，譬如高屋地基，（樱花书简 44页）幼年時代は高い家の土台のようなものです、

3 主体 = 動物 [10]

3.1 我 = 蚊

我只如蚊地跪在她的脚旁，（百合与番茄 上 393页）私はただ蟻のように彼女の足元に跪き、

3.2 我 = 骆驼

我这个沙漠中漂泊着的骆驼，（百合与蕃茄 上 390页）砂漠を彷徨う私というこの駱駝は、

3.3 秋草 = 狮子皮

枯黄的秋草，使全山就象蒙上了一大张狮子皮。（海涛集 神泉 二 262页）黄色く枯れた秋の草は、全山に大きな獅子の皮をかぶせているようである。

3.4 落叶 = 金色蛱蝶

时有落叶三五，戏舞空中如金色蛱蝶。（女神 湘累 16页）時に落ち葉が金色の蝶のように空を舞う。

3.5 心脏 = 鲜红的金鱼

我们的心脏，好象些鲜红的金鱼，在水晶瓶里跳跃！（女神 女神之再 13页）我らの心臓は真っ赤な金魚のように、水晶の甕の中で踊っている。

3.6 生命力 = 蚂蝗

我的生命力毕竟有蚂蝗那样的执扭，（海涛集 南昌之一夜 四 234页）私の生命力には要するに蝗のような執拗さがある。

3.7 易水 = 龙

易水从龙门流出，真象一条龙。（武则天 第三幕 第一场 153页）易水は龍門から流れ出すと龍のようです。

3.8 連山 = 怪物

天色逐渐昏黑了下来，耸立在前面的连山，阴森得象一条庞大的吃人的酷怪物。（海涛集 流沙 二 246页）あたりは次第に暗くなって来て、前方に聳え立つ連山は、不気味で人を食う巨大な怪物のようだった。

3.9 英国人 = 猛兽

猛兽一样的杀人政府哟！（胜利的死 其三）猛獸のような殺人政府よ。

3.10 队伍 = 鸡蛋

他们的队伍为什么都象鸡蛋一样一碰就破，（流亡 214页）彼らの部隊がどうしてぶつつかると卵のように壊れるのか、

按： 詩經

1) 頤如螾蟷（衛風・碩人）頤はすくも虫のように柔らかい

4 主体 = 天然物 [3]

4.1 雪卢汉 = 白水

前功尽弃，譬如捏一雪卢汉，... 顿成一锅白水也。（櫻花書簡 412页）前の努力がむだにな

ることは、ちょうど作った雪だるまが... たちまち一杯のただの水になってしまったようなものです。

4.2 文芸 = 石子

譬如一池平静的水，投进一块石子—不管那石子是怎样小，水面必生波纹，而且波及全面水面。文艺是社会现象之一，势必发生影响于全社会。（文艺之社会的使命 201页）たとえば、池の静かな水に、石を投げるようなものだ... 水面は必ず波紋を生じ、波は水面全体に広がる。文芸は社会現象の一であり、必ず影響を社会全体に及ぼす。

4.3 四川人 = 鹅卵石

四川人却更象一盘鹅卵石，（创造十年续篇 五 244页）四川人は更に盆の上の鶯鳥の卵の石のようである、

5 主体 = 植物 [3]

5.1 你 (= 宋玉) = 橘

所以我希望你要能够象这橘一样，独立不倚，凛冽难犯。（屈原 第一 293页）だから私は君がこの橘のように、独立不羈、毅然として犯し難くなり得るように希望する。

5.2 名字 = 地丁花

他 (= 一位阵亡了的朋友) 的名字... 就好象一簇地丁花的种子随着风飞散到人间。（北伐途次小引 6页）（戦死した友人の）名は... 堇の種のように風に乗って世の中に飛んで散って行くだろう。

5.3 恐怖 = 茶

我们的恐怖是如火如荼（如火如荼的恐怖）（成句）我々の恐怖は火のように赤く、つばなのように白い。

按： 詩經

- 1) 手如柔荑（衛風・碩人）手は野のつぐなのように柔らかい
- 2) 野有蔓草，零露漙漙，有美一人，婉如清揚（鄭風・野有蔓草）野に蔓草、露が滴り、美女一人あり、しとやかさが澄んだよう
- 3) 華如桃李，平生之孫，齊侯之子（召南・何彼穠矣）美しさは桃李のよう、平生の孫と齊侯の子
- 4) 顔如舜華，顔如舜英（鄭風・有女同車）顔は花のように美しく艶やか
- 5) 齒如瓠犀（衛風・碩人）齒はひさごの実のように白い
- 6) 首如飛蓬（衛風・碩人）頭はよもぎのように乱れる
- 7) 毳衣如葵（王風・大車）毛衣は葵のよう
- 7) 其甘如薺（邶風・谷風）にが菜はなず菜のように甘い
- 8) 有女如荼（鄭風・出其東門）つばなのような女あり

6 主体 = 人 [3]

6.1 农家的灯火 = 亲人的眼睛

沿途只于黑影森严中偶尔露出一些农家的灯火而已。那是情意深厚的灯火，好象亲人的眼睛。（海涛集 涂家埠 五 216页）沿線ではただ黒い影がたまたま農家の灯火にいかめしく現れるだけだった。それはいかにも情のこもった灯火だった、父母兄弟の眼差しのようだった。

6.2 天气 = 印度人的脸色

欲雨不欲雨的梅雨的天气，好象印度人的脸色一样笼罩在黄浦滩上。（阳春别 167页）雨が降るようで降らない梅雨の天気が印度人の顔色のような黄浦灘の上に漂っていた。

6.3 宇宙 = 血

茫茫的宇宙，腥秽如血！（女神 第二辑 凤凰涅槃 风歌 36页）茫々たる宇宙は、血のように生臭く汚い。

7 主体 = 学艺 [1]

7.1 水 = 分光图

博多湾水映在太阳光下，就好想一面挤极大的分光图，（残春 20页）博多湾の水は太陽の光の下で、ちょうど巨大な分光図のようだった。

8 主体 = 想造物 [1]

8.1 煤烟 = 恶魔

黑汹汹的煤烟！恶魔一样！（女神 第三辑 海舟中望日出 159页）黒いもくもくと上がる煤煙は悪魔のようだ。

II. B 否定

1 主体 ≠ 天然物 [2]

1.1 人们底歌声 ≠ 泪晶

我不相信人们底歌声有那样泪晶一样地宝澈。（女神 第一辑 湘累 23页）人の歌声があのような涙のように澄み透っているとは信じない。

1.2 （太阳出了土 ≠ 傍徨歧路）

才象是太阳出了土，使进步的作家们不再傍徨歧路了。漸く地から太陽が昇ったように、進歩的作家らはもう分かれ道で彷徨することがなくなった。（洪波曲 第十二章 疾风知劲草 四 文艺活动 188页）

2 主体 ≠ 动物 [1]

2.1 我 ≠ 马

我不是磨房的马，（今津纪游 二 307页）私は粉挽き屋の馬ではない、

III

间喻的主体和客体的关系如下。

III. A 肯定

1 主体≠人工物 [11]

1.1 我≡火星子

[从烘炉中突然迸出一个火星子出来的时候，这个「火星子的命运是只有感着孤独而且渐就死灭的。孤独就是个人意识的抬头，渐就死灭是执着个人意识的开始。」我当时就好像成了这样的一个火星子。（脱离蒋介石以后 五 175页）[坩堝の中から突然一つの火花がほとばしり出る時、この火花の運命は孤独を感じ、かつ次第に死滅して行くこと外はない。孤独は個人意識の台頭であり、次第に死滅して行くことは個人の意志に固執することの始まりである。] 私はこの時、このような一つの火花になったようであった。

1.2 我≡铁鞭，铁锤，匕首

我是呵，铁鞭，铁锤，匕首；（武则天 第四幕 第一场 207页）私は鉄の鞭、鉄の錘、匕首です。

1.3 我≡头笄之器

我是一个头笄之器，（武则天 第四幕 第一场 212页）私は一合柝で計られる男だ、

1.4 人民≡气球

那（=人民）是绝对弹性的气球，只要压力一松，它不仅立即恢复了原状，而且超过了原状。（洪波曲 第五章 宣传周 二 洪钧运转 67页）人民は絶対弾性をもつ気球であり、圧力が少し緩みさえすれば、立ちどころに現状を回復するだけでなく、現状を超えてしまう。

1.5 大雨≡倾盆（成句）

天愈来愈黑，突然间下出一批倾盆大雨。（海涛集 南昌之一夜 四 236页）空はますます暗くなり、突然盆を覆す大雨が降り出した。

1.6 流星≡灯笼

请看那朵流星，哪怕是他们（牛郎和织女）提着灯笼在走。（星天 天上的市街 194页）あの流星をごらん、あれは二人が提灯を下げて歩いている姿ではなかろうか。

1.7 格调≡烙印

这（=格调）就跟奴隶们头上的烙印一样，（屈原 第一幕 297页）この格調は奴隷の頭に押された烙印のように、

1.8 高射炮弹≡造花

高射炮更射出朵朵的绒花（洪波曲 第十三章 撤守前后 — “正义之剑” 195页）高射砲が一輪づつピロードの造花を打ち上げる。

1.9 生命≡箭

人的生命便是箭，正在海上放射呀！（女神 第二辑 笔立山头展望 68页）人の生命は矢である、ちょうど海上で射られている。

1.10 世界≡大陷坑

这样一个世界只是一个大陷阱，（高渐離 第一幕 10頁）今の世は大きな落とし穴に過ぎない。

1.11 中国≡墓地

是我把有声的中国 | 化成了无声的墓地。私は有声の中国を無声の墓地に変えてしまった。

按： 詩經

1) 綠兮衣兮，綠衣黃裏。心之憂矣，曷維其已！（邶風・綠衣）緑の衣よ、表は緑で裏は黄。心の憂さよ、何時に已む

2 主体≡自然現象 [9]

2.1 雷≡霆（成句）

春申君听了这话，便大发雷霆，（高渐離 第二幕 39頁）春申君はこの話を聞くと、雷鳴を發した（雷霆のごとく怒った）

2.2 至誠≡春天的和风，秋天的明月

那是一片赤裸裸的至诚。... 那是春天的和风，秋天的明月，人间的甘露，母亲胸上的奶！（高渐離 第四幕 78-9頁）それは赤裸々な至誠。... それは春のそよ風、秋の月、社会の甘露、母乳よ

3.3 百姓≡水

老百姓是水，水可以载船，也可以把船打翻。（武则天 第三幕 第二场 194頁）人民は水だ、水は船を載せることも出来るが、船を覆すことも出来る。

3.4 人≡水滴

空气是沸腾着的，... 人是沸水中浮游着的水滴，（阳春别 163頁）空気は沸騰していた、... 人は熱湯の中に浮かんでいる水滴だった。

3.5 无涯的枣花≡香海

一望无涯的枣花，漾成一片香海。（海涛集 涂家埠 八 220頁）見渡す限りの棗の花畑で、一面香りの海だった。

3.6 万馬≡海涛

可以看到万马奔腾的海涛。（武则天 第四幕 第二场 226頁）万馬のきおい立つ海の大波を見ることができる。

3.7 你（=屈原）≡洞庭湖，是长江，东海

你是洞庭湖，你是长江，你是东海，（屈原 第二幕 319頁）あなたは洞庭湖、あなたは長江、あなたは東海です、

3.8 希望≡海底捞月

前一种希望，... 却终是海底捞月。（洪波曲 第九章 反推进 四 也在“动员” 133頁）前者の希望は... 終に海底の月を掬うことだった。

3.9 中国人≡砂

中国人据说是一盘散砂，（创造十年续篇 五 244頁）中国人は盆の上のばらばらの砂だと

言われる、

4 主体≡動物 [6]

4.1 队伍≡鸟兽

队伍立刻鸟兽散起了。(海涛集 流沙 三 250页) 隊列はたちまち鳥か獣の四散となった。

4.2 队伍≡蚂蚁

队伍立地成了乱了阵的蚂蚁。(海涛集 流沙 二 245页) 隊列はたちまち算を乱した蟻になってしまった。

4.3 士兵骡马≡蚁

公路的两旁为一上一下的士兵骡马蚁接着,(归去来 前线归来二 441页) 道路の両側を行き来する兵士や軍馬は蟻の列をなして、

4.4 嘉定学风≡马牛

嘉定学风,从来一坏,...与彼马牛为群,(樱花书简 16 44页) 嘉定の学風は、従来から悪くなって、...その牛馬の群に入れて、

4.5 天逆不道≡毒蛇

原来上官仪父子,裴炎都是天逆不道,我一直和毒蛇伙在一起。(武则天 第三幕 第二场 一 91页) もともと上官儀父子と裴炎は大逆無道でした、私は毒蛇とずっとぐるになって来た。

4.6 诗≡疯狗

有人说我的诗诗疯狗(战声集 疯狗礼赞 11页) 私の詩は狂犬だと言う人がいる

按: 詩經

1) 螽斯羽, 詵詵兮, 宜爾子孫振振兮(周南・螽斯) きりぎりすは、数知れず、君の子孫は、盛んなり。

5 主体≡人 [5]

5.1 时间≡铁面无情的调侃者

时间毕竟是一位铁面无情的调侃者(洪波曲 第九章 反推进 五 利用托派 138页) 時間は要するに鉄面無常な嘲笑者である。

5.2 至誠≡母亲胸上的奶

那是一片赤裸裸的至诚... 那是春天的和风, 秋天的明月, 人间的甘露, 母亲胸上的奶!(高渐離 第四幕 78-9页) それは赤裸々な至誠。... それは春のそよ風、秋の月、社会の甘露、母の乳房である。

5.3 天上的晚江≡焦沸的心血

那天上的晚江!不是我焦沸的心血吗?(女神 第三辑 沪杭车中 163页) あの天空の夕焼けこそ、たぎりたつ私の心臓の血ではなからうか。

5.4 虺蜴≡心

虺蜴为心（武则天 第三幕 第二场 192页）蝮や蜥蜴を心となす

5.5 豺狼≡性

豺狼成性（武则天 第三幕 第二场 192页）山犬や狼が性となる

6 主体≡天然物 [4]

6.1 艺术与人生≡晶球的两面

艺术与人生，只是一个晶球的两面，（论国内的评坛及我对于创作上的态度 227页）芸術と人生は水晶球の両面に過ぎない。

6.2 她≡花岗岩

她是花岗岩雕成的。（武则天 第二幕 第一场 153页）あのかた（=則天武后）は花岗岩を彫って作ったものである。

6.3 调子≡铿锵

文章是做得不错，调子满铿锵。（武则天 第三幕 第二场 194页）文章は立派だ。文調に金石の響きが満ちている。

6.4 革命核心的新动向≡新的根苗

真心的革命核心也就采取了新的动向，突破那些已腐或集将腐的果皮果核，而迸发出新的根苗来。（海涛集 涂家埠 一 210页）真の革命の中核も新たな動向を取って、あのような腐ったあるいは腐りかけた果実の皮と種を突き破って、新たな根と苗を産出した。

按： 詩經

1) 蜉蝣之羽，衣裳楚楚（曹風・蜉蝣）陽炎の羽、衣は楚々

2) 蜉蝣之翼，采采衣服（曹風・蜉蝣）陽炎の翼、美しい服

7 主体≡学艺 [3]

7.1 高兴≡零度以下，负号

一场高兴不用说已经冷去了一半。但是剩下了一半还要冷到零度以下，生出负号来。（北伐途次 二四 97页）張り切った気分は勿論もう半ば冷めていた。残った半分も更に冷めて零度以下になり、マイナス符合がついてしまった。

7.2 大宇宙的生命≡音乐

大宇宙的生命就是音乐。（高渐離 第四幕 73页）大宇宙の生命は音楽である。

7.3 浏览书籍或翻翻目录≡情绪的交曲

在书店里浏览书籍，或者翻翻目录，... 超绝时空的灵魂的冒险，情绪的交曲。（百合与蕃茄中 396-7页）書店で本を見て廻ったり、目録を捲ったりすることは... 時空を超絶する魂の冒険であり、情緒の交響楽である。

8 主体≡植物 [5]

8.1 我们≡蔷薇

我们是白色的单瓣蔷薇，| 香气随着微风可传十里。（百花齐放 十里香 90页）我々は白い

単弁の薔薇である、香気はそよ風に乗って十里まで匂う。

8.2 我们≡海棠

猩紅色の花朵貼着枝干开放，|因此，人们叫我们为贴干海棠。（百花齐放 铁干海棠 130页）真っ赤な花卉が枝の幹に貼り付いて開いている、だから人々は我々を幹に貼りついた海棠と呼ぶ。

8.4 遺稿≡向日葵

關於近代學識特別是參加民主運動以來的著述僅少數，因此從這整個遺稿上便給我這樣的印象：一顆茁壯的向日葵剛剛纔開出燦爛的黃花便被人連根拔掉毀了。（聞一多全集 郭序 1页）近代の学識に関しては、特に民主運動以来の著述は極めて少数である。故に、このすべての遺稿は私に次のような印象を与える。勢いよく伸びている向日葵は向日葵はたった今きらきらと光る黄色の花が鮮やかに咲き始めると途端に、人に根こそぎ引き抜かれて踏み潰された。

8.5 [烟]≡牡丹，名花

一枝枝的烟筒都开着了朵黑的牡丹呀！|哦哦，二十世纪的名花！（女神 第二辑 笔立山头的展望 68页）一本一本の煙突が黒い牡丹を花を開き始めた。ああ、二十世紀の名花を。

按： 詩經

1) 何彼穠矣，華如桃李。平生之孫，齊侯之子（召南・何彼穠矣）何があそこに茂るのか、花は桃や李よ。平生の孫と齊侯の子よ、

2) 桃之夭夭，灼灼其華，之子于歸，宜其室家（周南・桃夭）桃は若く燃え立つその花この娘が嫁ぐ、その家によし（娘=桃とその花）

3) 桃之夭夭，有蕢其實，之子于歸，宜其室家（周南・桃夭）桃は若く大きいその実この娘が嫁ぐ、その家によし（娘=桃とその実）

4) 桃之夭夭，其葉蓁蓁，之子于歸，宜其室家（周南・桃夭）桃は若く茂るその葉この娘が嫁ぐ、その家によし（娘=桃とその葉）

9 主体≡人生 [1]

9.1 他人之旗鼓≡自己的保障

巧于张他人之旗鼓，作自己的保障了。（櫻花書簡 57 146页）彼は他人の旗と太鼓を自分の守りとするに巧みです。

10 主体≡食物 [1]

10.1 科学≡甘乳

吸吮欧西的纯粹科学的甘乳（论中德文化书—致宗白华 157页）西洋の科学という乳を飲む

III. B 否定

1 主体≠自然物 [1]

1.1 你（=屈原）≠溪，池水

你不是一条小小的溪水，你不是一个人造的池水哟。（屈原 第二幕 319页）あなたは小さい溪水ではない、あなたは人工池のみずではありません。

IV

间喻和直喻共存

1 主体≡人工物=动物 [1]

1.1 你 (= 罗曼·罗兰) ≡ 战船 = 骏马

你伟大的人类爱底使徒，你请安息吧，战船，就好象嘶风的骏马，和你生前一样，早又奔腾上消灭法西斯野兽的世界战场。（和平之光—罗曼·罗兰挽歌 70页）あなた（=ロマン・ロラン）は偉大な人類の使徒である、どうかお休み下さい、戦艦よ、嘶く駿馬のように、生前のあなたのように、早くもまたファシストの野獣を撃滅する戦場を跳ね回っていらっしゃる。」

V

句子比喻句子如下。

1 社会 [5]

1.1 毁坏一个器皿 = 解散一个组织

就和毁坏一个器皿是很容易的一样，解散一个组织当然也是很容易的。（海涛集 涂家埠 四 213页）食器を壊すことが容易いと同様、組織を解散させることもごく容易である。

1.2 把一团锈了的铁加在好铁里面 = 把泰国腐烂

就象把一团锈了的铁加在好铁里面一样，我要从这内部来把泰国腐烂。（高渐離 第二幕 49页）錆びた鉄を良い鉄の中に投げ入れるよう、私は安泰な国を内部から腐敗させる。

1.3 让青年自由发展 = 培植树木

我们对于青年应该让他们自由发展，就象培植树木一样，（洪波曲 第九章 反推进 二 申斥与召见 126—7页）我々は青年に対して彼らを自由に発展させなければならない、ちょうど樹木を育てるのと同じように、

1.4 和同志及于立群分手 = 移植一株树木而榷枝插活

和许多朝夕共处的同志要分手了，和于立群也要分手了，就象要移植一株树木，而同时又生生地从树上摘下一条榷枝想要插活那样，（洪波曲 第十二章 疾风知劲草 五 等待爆炸 191页）朝夕に共に暮らした同志と別れなければならない、于立群とも別れなければならない、それは一株の木を移植しなければならないと、同時に木から生のまま股枝の片方をもぎ取って差しこまなければならないようなものである、

1.5 人和车子涌向 = 流水归槽

人和车子就象流水归了槽的一样都涌向这儿。(洪波曲 第十五章 长沙大火 三 良心的苛责 232页) 人も車も、ちょうど水が溝に流れ込むように、すべてここへ押しかけた。

按： 詩經

- 1) 魴魚頰尾，王室如燬（周南・如墳）おしき魚が尾を焼く、朝廷は焼くようだ。
- 2) 有冤爰爰，雉離于羅。我生之初尚無爲，我生之後逢此百罹。尚寐無吽！（王風・冤爰）兎がここにいる、雉があそこで網に掛かる。私の生まれた当初はまだ何もなかった。私が生まれた後この百難に遭う。なお寝たまま動くまい。
- 3) 于嗟鳩兮，無食桑葚！于嗟女兮，無與士耽。（衛風・氓手）おお鳩よ、桑を食べるな。おお女よ、男と耽るな。
- 4) 投我以木瓜，報之以瓊琚（國風・衛風・木瓜）私に木瓜（ほけ）を投げかけた、それには玉で報いよう

2 自然 [1]

2.1 天愈来愈黑，突然间下出一批倾盆大雨。——不，这“倾盆”两个字还不能够形容，倒可以说是倒海翻江，或说，整个的天都垮塌下来了的那樣。(海涛集 南昌之一夜 四 236页) 空はますます暗くなり、突然盆を覆したような大雨が降り出した。いや、この“盆を覆す”という言葉ではまだ形容しきれない、海を倒し、河を覆すと言ったほうがよかろう、あるいは空全体が崩れ落ちて来たと言おうか。

3 宗教 [1]

3.1 向上海人问路就好象向菩萨求灵，(百合与番茄 中 395页) 上海人に道を尋ねるのは菩薩に靈驗を求めるようなものであり、

VI

法国作家安德烈・布雷顿 (1896-1966) 定義过了超現實主義：

Automatisme psychique pur par lequel on se propose d'exprimer, soit verbalement, soit par écrit, soit de toute autre manière, le fonctionnement réel de la pensée. Dictée de la pensée, en l'absence de tout contrôle exercé par la raison, en dehors de toute préoccupation esthétique ou morale. 一种纯粹的自律性心理活动。根据这种心理活动，人们企图利用说话，书写，以及其他种种手段来表达思维的现实作用。亦即在美学乃至道德的各种先人之见无关的缺乏理性检验的思维的口头表述。

列句：

Poisson solubre 20

On s'est avisé un jour de recueillir dans une coupe de terre blanche le duvet des fruits ; cette buée on

en a enduit plusieurs miroirs et l'on est revenu bien longtemps après : les miroirs avaient disparu.

溶解性的鱼 20

一天一个人想到了：把果实的羽毛来要集聚白土的杯内。他把这种雾厚厚地涂几个镜了。长时以后他回来。镜子都看不见了。镜子一张一张起来过，晃动地走开了。

不消说郭沫若知道同时代法国文学思潮和想到导入这种看法。

歸 納

- 1 毋庸置疑，郭沫若无论是文学作品还是论文都富于使用比喻的手法。单词构成例 (II, III)，和句子成为列。(IV)。
- 2 肯定直喻靠自然现象 [16]，人工物 [12]，动物 [10]，天然物 [3]，植物 [3]，人 [3]，学艺 [1]，想造物 [1] 来表达。(II. A)
- 3 否定直喻靠天然物 [2]，动物 [1] 来表达。(II. B)
- 4 间喻靠人工物 [11]，自然现象 [9]，动物 [6]，人 [5]，天然物 [4]，学艺 [3]，植物 [5]，人生 [1]，食物 [1] 来表达。(III. A)
- 5 否定间喻靠自然物 [1] 来表达。(III. B)
- 6 间喻和直喻共存。[1] (IV)
- 6 句子的比喻与社会 [5]，自然 [1]，宗教 [1] 有关。(V)
- 7 如布雷顿的超现实主义定义 (VI)，郭沫若总使用‘想不到’的比喻和寻求‘意外’的效果。不消说他受到了在法国文学中发展起来的超现实主义的影响。诗经实际上使用了‘想得到’和‘并不意外’的比喻。
- 8 本文仅仅是我所研究的一个中间发表，今后将进一步探索比喻用法的例句，以破译郭沫若的文学手法之谜

引 用 文 献

- 1 樱花书简 唐明中 黄高斌编注 樱花书简 一九一三—二三 成都 四川民出版社 一九八一。
- 2 王阳明礼赞 郭沫若全集 历史编 第三卷 奴隶制时代·史学论集 北京 人民文学出版社 一九八四。
- 3 女神 郭沫若全集 文学编 北京 人民文学出版社 第一卷 一九八二。
- 4 星空 同上
- 5 胜利的死 同上
- 6 如火如荼的恐怖 同上

- | | | |
|----|------------------|---|
| 7 | 战声集 | 郭沫若全集 文学编 第二卷 北京 人民文学出版社 一九八二. |
| 8 | 和平之光 | 同上 |
| 9 | 断想四章 | 同上 |
| 10 | 百花齐放 | 郭沫若全集 文学编 第三卷 北京 人民文学出版社 一九八三. |
| 11 | 古美绝交前后所见 | 郭沫若全集 文学编 第四卷 北京 人民文学出版社 一九八四. |
| 12 | 卷耳集 | 郭沫若全集 文学编 第五卷 北京 人民文学出版社 一九八四. |
| 13 | 新华颂 | 同上 |
| 14 | 屈原 | 郭沫若全集 文学编 第六卷 北京 人民文学出版社 一九八六. |
| 15 | 高渐离 | 郭沫若全集 文学编 第七卷 北京 人民文学出版社 一九八六. |
| 16 | 武则天 | 郭沫若全集 文学编 第八卷 北京 人民文学出版社 一九八七. |
| 17 | 阳春别 | 郭沫若全集 文学编 第九卷 北京 人民文学出版社 一九八五. |
| 18 | 残春 | 同上 |
| 19 | 芍药及其他 | 郭沫若全集 文学编 第十卷 北京 人民文学出版社 一九八五. |
| 20 | 我的童年 | 郭沫若全集 文学编 第十一卷 北京 人民文学出版社 一九九二. |
| 21 | 初出夔门 | 同上 |
| 22 | 百合与蕃茄 | 郭沫若全集 文学编 第十二卷 北京 人民文学出版社 一九九二. |
| 23 | 创造十年续篇 | 同上 |
| 24 | 今津记游 | 同上 |
| 25 | 北伐途次 | 郭沫若全集 文学编 第十三卷 北京 人民文学出版社 一九九二. |
| 26 | 海涛集 | 同上 |
| 27 | 归去来 | 同上 |
| 28 | 洪波曲 | 郭沫若全集 文学篇 第十四卷 北京 人民文学出版社 一九九二. |
| 29 | 流亡 | 同上 |
| 30 | 文艺之社会的使命 | 郭沫若全集 文学编 第十五卷 北京 人民文学出版社 一九九〇. |
| 31 | 论德文化书 | 同上 |
| 32 | 论国内的评坛及我对于创作上的态度 | 同上 |
| 33 | 安德烈·布雷顿 | <i>André Breton, Manifeste du surréalisme, second manifeste du surréalisme Poisson solubr; Lettre aux voyante Position politique du surréalisme extraits Prolégomènes à un troisième manifeste du surréalisme ou non Du surréalisme en ses oeuvres vives, Jean-Jacques Pauvert éditeur, s. d., p. 40.</i> |

詩經比興研究文獻摘錄
(除了只關於賦的研究)

[比(直喻) simile 興(間喻) metaphor 賦(直敘) declarative]

比

- 1 李湘 詩經中的‘比’法 中州學刊 1981, 1 1981.
- 2 周尚風 論‘比’的邏輯功能 西北師院學報(社會科學) 1983, 1 1983.
- 3 夏傳才 說比的藝術 「詩經言語藝術」(北京 語言出版社) 1985.
- 4 魏靖峰 試析詩經十五國風的‘比’ 孔孟學報 24, 5 1986.

興

- 1 顧頡剛 起興 歌謠週刊 94 1925.
- 2 鍾敬文 談談興詩 文學週報 5, 8 1927.
- 3 何定生 關於詩的起興 「古詩辨」第三冊(北平 樸社) 1931.
- 4 朱自清 關於興詩的意見 「古詩辨」第三冊(北平 樸社) 1931.
- 5 張維思 論六詩之「興」義 責善半月刊 2, 11 1941.
- 6 張朝柯 詩經的「興」及其起源 文學遺產增刊 2(北京 人民文學出版社) 1956.
- 7 袁暉 論‘興’ 合肥師院學報 1962, 1 1961.
- 8 徐公恃 詩興發微 哈爾濱師範學院學報 1964, 2 1964.
- 9 金沙江 關於詩經中興及其所起作用問題的討論 光明日報 1961, 11-12 1961.
- 10 王靜芝 詩興釋例 中山學術文化集刊 5 1970.
- 11 陳世驥著 王靖獻譯 原興：兼論中國文學特質 香港中文大學 中國文化研究所學報 3, 1 1970.
- 12 陳世驥 原‘興’兼論中國文學特質 香港中文大學中國文化研究所學報 3, 1 1970.
- 13 婁普賢 詩經興義的歷史發軔 「詩經研讀指導」(台北 東大圖書公司) 1977.
- 14 周偉民 說‘興’ 華中師院學報(哲學社會科學) 1978, 4 1978.
- 15 林東海 說‘興象’—兼談賦比興 「文學評論叢刊 1」(北京 中國社會科學出版社) 1978.
- 16 周示行 詩經中帶‘有’字興句的剖析 衡陽師專學報 1980, 1 1980.
- 17 程俊英 略談詩經興的發展 華東師範大學學報 1980, 4 1980.
- 18 湯國鐵 談詩經中興的表現手法 貴陽師院學報 1981, 4 1981.
- 19 金明凱 興的異說 文史知識 1981, 5 1981.
- 20 夏傳才 說興的藝術 「詩經言語藝術」(北京 語言出版社) 1985, 6 1985.
- 21 趙沛霖 象徵型興象與解詩的分歧 河北大學學報 1982, 3 1982.
- 22 李湘 ‘興’義辨原源 中州學刊 1982, 4 1982.

- 23 王 健 詩經中的興與人和自然的對應 復旦學報(社會科學) 1982, 4 1982.
- 24 左松超 詩經興義與探原 香港浸會學院學報 10 1983.
- 25 郭外岑 釋‘興象’—兼談晉宋以來我國詩歌創作美學思想的轉變 社會科學(甘肅) 1983, 1 1983.
- 26 李 湘 ‘興’法分類考 中州學刊 1983, 5 1983.
- 27 蔡根詳 詩‘興’義研究及其衍見 孔孟月刊 21, 7 1983.
- 28 周示行 詩經興義新探舉例 「古典文學論文選」(長沙 湖南人民出版社) 1984.
- 29 李 湘 毛詩系‘興’考 江海學刊 1984, 1 1984.
- 30 趙沛霖 虛擬動物興象的起源與祥瑞觀念 福建論壇 1984, 2 1984.
- 31 趙沛霖 興產生的時代與原始詩歌和神話的結束 天津社會科學 1984, 3 1984.
- 32 潘重規 詩經興義的新觀察 孔孟月刊 22, 12 1984.
- 33 夏傳才 說興的藝術 「詩經語言藝術」(北京 語言出版社) 1985.
- 34 趙沛霖 ‘興’: 宗教觀念內容向藝術形式積澱 天津社會科學 1985, 5 1985.
- 35 涂元濟 ‘興’與原始思維 福建師大學報 1986, 4 1986.
- 36 趙沛霖 興的起源與詩歌藝術的飛躍 貴州大學學報(社會科學) 1986, 1 1986.
- 37 施炳華 毛詩興義析論 中華文化復興月刊 20, 1-2 1987.
- 38 倪祥保 詩經‘興’意類探 蘇州大學學報(哲學社會科學) 1987, 2 1987.
- 39 趙沛麟 興的分類, 本義和起源研究評述 遼寧大學學報(哲學社會科學) 1988, 5 1988.
- 40 王志忠 國風愛情詩中植物比興的奧秘 語文學刊(內蒙古師範大學報) 1988, 5 1988.
- 41 劉傳新 興—中國詩歌之本: 中國詩歌的原型研究之一 東岳論叢(濟南) 1989, 2 1989.
- 42 苗 草 <詩經> 興法芻議 理論探討(哈爾濱) 1989, 2 1989.
- 賦興
- 1 陳蒲清·吳康 賦興—意象—意象疊加 教與學 1981, 1 1981.
- 比興
- 1 王季思 說比興 國文月刊 34 1945.
- 2 朱自清 比興 「詩言志辨」(上海 開明書店) 1947.
- 3 劉秋潮 風詩的「比調」大陸雜誌 12, 12 1956.
- 4 徐復觀 釋詩的比興—重新奠定中國詩的欣賞基礎 民主評論 9, 15 1958.
- 5 王靜芝 詩比興釋例 中山學術文化集刊 5 1970.
- 6 何寄澎 詩經比興探究 幼獅月刊 36, 2 1972.
- 7 林信忠 詩經比興二義探究 師院文萃 10 1973.
- 8 秦兆基·李寧 詩與比興 詩刊 1978, 4 1978.

- 9 王季思 再說比興 學術研究 1978, 1 1978.
- 10 黃瑞雲 詩經中的比興 華中師院學報(哲學社會科學) 1978, 4 1978.
- 11 宋欣·程迅 古代比興說與形象思惟論 社會科學戰線 1978, 1 1978.
- 12 王運熙 談中國古代文論中的比興說 文藝論叢 4 1978.
- 13 甌群 論比興與自然美 「文學評論叢刊1」(北京 中國社會科學出版社) 1978.
- 14 程俊英 詩經的比興 「文學評論叢刊1」(北京 中國社會科學出版社) 1978.
- 15 周滿江 詩經的比興 語文月刊 1979, 3 1979.
- 16 羅立乾 經學家比興論述評 「古代文學理論研究叢書刊1」(上海古籍出版社) 1979.
- 17 韓黎範 敷陳, 比付, 起興—詩經的藝術手法 語文學習(上海) 1980, 12 1980.
- 18 安旗 ‘比興’新箋詩刊 1980, 7 1980.
- 19 王從仁 ‘比興’的緣起和演化 古代文學理論研究 5 1981.
- 20 陳新璋 古代詩詞比興手法的運用與評論 華南師院學報(社會科學) 1982, 1 1982.
- 21 蘇伊文 詩經比興初探 台中師專學報 1, 1 1982.
- 22 張國風 比興別解 學術研究 1982, 5 1982.
- 23 姚慶瑞·孫琪 不能優比興而劣賦文人 雜誌 1982, 6 1982.
- 24 葛成民 關於‘比興說’ 臨沂師專學報 1983, 3 1983.
- 25 張毅 比興, 神思, 妙悟—中國古代文學批評家對藝術思惟的認識 南開學報(哲學社會科學) 1984, 2 1984.
- 26 范重長 論詩經的比興藝術 錦州師院學報 1984, 2 1984.
- 27 劉君祖 比興, 固是與擬制: 詩書禮諸書表達手法初探 哲學與文化 12, 3 1985.
- 28 周祖謨 中國古代詩歌的比興和想像 中國文學報 36 1985.
- 29 王筱藝 論詩經兩種比興的產生和相互作用 廣西師範大學學報 1986, 2 1986.
- 30 沈玉成 詩經中的比興 文史知識 1986, 5 1986.
- 31 趙沛霖 六十余年比興研究述評 貴州大學學報(文史哲) 1986, 12 1986.
- 32 潘澍 <詩>‘比興’辨 遼寧師大學報(社會科學) 1988, 3 1988.
- 33 睢健 興義簡說 承德師專學報(社會科學) 1988, 8 1988.
- 34 余蘭 略論古代詩歌的比興手法 淮陽師專學報(哲學社會科學) 1988, 4 1988.
- 35 蕭華榮 作為試義批評的‘比興’說 文藝理論研究 1988, 5 1988.
- 36 李炳海 <詩經>的比, 興與<周易>卦, 爻辭的象徵 東北師大學報(哲學社會科學) 1989, 4 1989.
- 37 李家生 談<詩經>比興緣起與相關詩意 遼寧教育學院學報 1990, 1 1990.

賦比興

- 1 楊次道 賦比興的研究 學藝(上海) 9, 2 1919.
- 2 王晴漪 甚麼是賦比興 新晨報 副刊 1928.

- 3 張壽林 釋賦比興 「詩經六考」(北京 文化學社) 1929.
- 4 揚佩瑛 詩的賦比興 采社 6 1931.
- 5 朱自清 賦比興說 清華學報 12, 3 1937.
- 6 吳家煦 毛詩賦比興之研究 中日文化 2, 6-7 1942.
- 7 傅庚生 賦比興問詁 東方雜誌 41, 6 1945.
- 8 胡念貽 詩經中的賦比興 文學遺產增刊 1 (北京 人民出版社) 1955.
- 9 高葆光 詩賦比興正詁 東海學報 2, 1 1960.
- 10 段熙仲 談談賦比興 雨花 1962, 8 1962.
- 11 劉光義 釋詩賦比興之興 大陸雜誌 34, 2 1967.
- 13 戴君仁 賦比興的我見 文史哲學報 20 1971.
- 14 楊 磊 略談詩經中的比興賦 昆明師院學報(哲學社會科學) 1978, 3 1978.
- 15 吳枝培 賦比興詮證 南京大學學報(哲學社會科學) 1978, 2 1978.
- 16 澎湃 何以不見賦比興? 中華日報 11 1978, 5-4 1978.
- 17 吳登台 試論詩經中賦比興的意義 青年戰士報 10 1978.
- 18 陳定玉 賦比興與詩經的比興藝術 福建師大學報(哲學社會科學) 1978, 3 1978.
- 19 胡念貽 論賦比興 「文學評論叢刊 1」(北京 中國社會科學出版社) 1978.
- 21 王慶璠 談賦在表現方法上的應用 江淮論壇 1981, 2 1981.
- 22 羅星明 談詩經中的賦比興 承德師專學報 1981, 1 1981.
- 23 常光明 '賦比興' 今譯 齊魯學刊 1981, 6 1981.
- 24 魯良彥 詩經的賦, 比, 興及其對後世詩歌的影響 台州師專學報 1982, 1 1982.
- 25 曹文安 詩經 '賦, 比, 興' 略論 宜昌師專學報 1983, 1 1983.
- 26 蒲友俊 賦比興與自然美 雲南社會科學 1983, 2 1983.
- 27 曹 菁 賦比興三體辨譯異 常德師專學報 1983, 2 1983.
- 28 張志岳 賦比興本義說(兼論賦體的發展) 齊齊哈爾師範學報 1983, 2 1983.
- 29 張震澤 詩經賦, 比, 興本義新探 文化遺產 1983, 3 1983.
- 30 劉國培 關於賦比興的在探討 昆明師專學報 1984, 1 1984.
- 31 戴華輝 詩經賦比興闡要 僑光學報 3 1984.
- 32 辛志賢 詩經的賦比興手法 語文導報 1985, 1 1985.
- 33 李 湘 詩經賦比興本義辨—與張震澤同志商榷 中州學報 1985, 4 1985.
- 34 吳孟復 賦比興別解 藝文志 3 1985.
- 35 黃 挺 詩經賦比興新釋 韓山師專學報 1986, 1 1986.
- 36 李 湘 賦比興起源於周易 東岳論叢 1986, 4 1986.
- 37 李 湘 從賦比興看詩經創作的虛實結構法則 河南大學學報(哲學社會科學) 1986, 5 1986.

- 38 譚兆麟 略論賦比興觀念的演進和發展 湖南師大社會科學學院 1987, 41987.
39 朱 樺 ‘賦比興’與藝術審美的有幾性 文藝理論研究 1988, 4 1988.
40 魯洪生 賦, 比, 興理論的熟成 遼寧大學學報 (哲學社會科學) 1988, 5 1988.
41 陳元峰 <詩>賦, 比, 興古義發微 語文遺產 1988, 6 1988.
42 施炳華 毛詩賦比興較論 成功大學學報 (人文社會) 24 1990.

付 白

本文写期间中特別參考魏靖峰的论文「試析詩經十五國風的‘比’」(孔孟月刊 281 第二十四卷 第五期 中國民國七十五年一月 26-31頁), 而且得到畏友平山久雄(東大名譽教授)的建議和武繼平同學(立命館大學講師)的布雷頓的超現實主義論和例句的中文翻譯. 在此表示由衷感謝.

キーワード：比喻 明喻 暗喻 中国文学 郭沫若

Keywords : simile, metaphor, Chinese Literature, Guo Mo Ruo